

## ウイルス研究所コンピュータネットワークシステム Computer Network of Institute for Virus Research

ウイルス研究所ネットワークシステムは、淀井教授、伊藤（維）教授、真木講師、竹本助手、相楽技官より構成されるネットワーク委員会によって管理され、ウイルス研究所、附属ゲノム医学センターおよび医学部分子医学専攻の3部局が含まれる分子生物学実験研究棟、および動物実験棟へサービスを提供している。ウイルス研究所が、京都大学学内ネットワークのドメインとして独自のLANを構築して今年で15年となったが、当初イエローケーブルにトランシーバを取り付けて産声を上げたLANは、本館ではコアシッチと各階エッジスイッチを光ケーブルで結ぶ形態へと変化し、昨年は本館のスイッチをギガ対応のものに更新した。今年度は懸案であった新棟のネットワークリニューアルが実現し、各階にギガ対応のエッジスイッチを配置しカテゴリー6のメタルケーブルを配線して、大量情報の高速通信に耐えられるシステムを構築した。

生物学・医学研究におけるコンピュータネットワークはいまや必要不可欠と言ってよく、当ネットワークでもSUNワークステーションなどを用いて、メールサーバー・WWWサーバー等を運用しているが、高速性・機能性・安全性を満たすサービスの提供が第一と心がけている。

一方、近年ネットワークは研究のために利用するツールに留まらず、情報発信の場としての重要性も増しており、研究所の知的情報資産を社会に還元していく広報メディアとしての役割をいかに果たすか、機能的でかつ魅力的に情報を伝えるにはどうしたらよいか、多くの情報をもっと楽に掲載して共有できる形態とはこういったものか、現在、ネットワークの可能性を模索しているところでもある。

また、ネットワークサービスを保証する上で情報の管理が大変重要になっており、個人情報に言及するまでもなく、資産としての情報の価値がますます大きくなっていく社会に我々は立っている。京都大学全学情報セキュリティ委員会の発足に伴い、当研究所においても情報セキュリティポリシー実施手順書が設定されたが、安全性の高いネットワーク運営のためには、ハードウェアの管理や脆弱性の点検に加え、ネットワークに対する不正アクセスや著作権物の不正入手などを冒さないユーザーのモラル教育など、我々管理グループだけでなくユーザー全体の意識向上が望まれる。